

主題：神の宮——神の永遠のエコノミーの目標としての、
召会の内在的な意義

メッセージ 3

主と共に幕屋の召会生活から宮の召会生活に前進する

聖書：エゼキエル 43:10-12. ヨハネ 14:23. ピリピ 3:12-14. イザヤ 66:1-2. 57:15. エペソ 2:21-22

I. ハバクク（「抱擁する」あるいは「寄りかかる」）という名の意味は、神がキリストの中で人と成ってわたしたちを抱擁し、獲得して、わたしたちが彼に寄りかかり、彼を獲得することを啓示します。キリストはわたしたちを獲得しました。それはわたしたちが彼を獲得し、彼がわたしたちの中に建造し込まれ、わたしたちが彼の中に建造し込まれて、団体の神・人、新しい人、生ける神の宮、家としての召会、神と人の相互の住まいとなることができるためです——ヘブル 1:1. 2:2, 4 後半. ピリピ 3:12-14. 参照、創 41:51-52。

II. 神の民の働き、振る舞い、パースンは、神の設計とパターンにしたがった、神の家としての召会と符合していなければなりません——エゼキエル 43:10-12：

A. 神の建造とは、手順を経た三一の神がご自身をわたしたちの中に建造し込むことですから、わたしたちは成就された聖徒たちによって、召会生活の中で成就される必要があります。彼らは造り変える霊と協力して、三一の神の属性をもって人を成就し、造り変えます——I コリント 3:9, 12, 16-17. 雅 1:10-11. エペソ 4:11-12. ヨハネ 14:23。

B. 神の家は霊的ですから、わたしたちは、その霊で満たされ、その霊によって生き、その霊によって歩き、その霊によって仕え、霊にしたがって歩き、わたしたちの霊の中で礼拝し、わたしたちの霊の中で仕え、その霊で満ちあふれてその霊を供給する人とならなければなりません——I ペテロ 2:5. エペソ 5:18. ガラテヤ 5:16, 25. ピリピ 3:3. ローマ 8:4. ヨハネ 4:24. ローマ 1:9. ヨハネ 7:37-38. II コリント 3:6. ヨハネ 6:63. イザヤ 66:1-2. 57:15。

C. 神の家は彼の心の願いですから、わたしたちは彼の友となるだけでなく、彼の仲間ともならなければなりません。神の仲間は、彼との最も個人的で親密な接触を持ち、彼に用いられて彼の企画を地上で遂行します——ヨハネ 2:17-22. ヤコブ 2:23. 出 33:11。

III. 幕屋と宮は召会の二つの面を予表します：

A. 列王上第 8 章 1 節から 11 節は、幕屋が宮に吸収されたことを見せています。幕屋は移動可能な前触れであって、荒野を移動していましたが、宮は予表における神の建造の究極的完成でした。

B. 幕屋の拡大としての宮は、召会を強化し固定することを表徴し、宮における調度品の更新と拡大は、聖徒たちがキリストを経験することの更新と拡大を表徴します：

1. 宮と宮における至聖所の大きさは、幕屋のもの二倍でした。さらに、契約の箱を例外として、調度品と器具の大きさと数は大きく拡大しました——列王上 6:2,

20. 歴代下 4:1-8. 参照、出 26:3, 16, 18, 22-24, 33。

2. これは、キリストご自身（契約の箱で表徴される）は拡大されることができなくとも、わたしたちがすべての豊富においてキリストを経験することは、宮とその調度品と器具で表徴されるように、大きく増し加わり、拡大されて、彼の拡大された表現に符合すべきであることを示します——エペソ 3:8, 14-19. ピリピ 3:7-14。
- C. 幕屋は地上での神の召会、あるいは各地方での彼の召会を予表しますが、宮はキリストのからだの実際としての召会を表徴します。諸地方召会は尊い手続きであり、わたしたちを、神のエコノミーの栄光ある目標としてのからだの実際にもたらしませます——エペソ 1:22-23. 参照、啓 21:10-11。
- D. 唯一の務めは神の唯一の証しのためであり、神の唯一の証し、キリストのからだの実際は、諸地方召会の中で実際化されます——出 25:22. 38:21. 啓 1:2, 9. 参照、エペソ 4:4. ヨハネ 16:13。
- E. I コリント第 12 章に記載されたからだは、地方召会が持つべき証しです。それはからだの証しです。地方召会は今日、キリストのからだの実際を表現する証しでなければなりません—— 14-18, 21 節。
- F. 召会は一の証しのために存在します。わたしたちが「地方召会」と言うとき、わたしたちの強調は召会にあるのであって、「地方性」にありません。諸召会が所有する命は一の命です——ヨハネ 17:11, 21, 23. 啓 1:10-12。
- G. キリストのからだの実際の証しは、神の最終の証しです。それはわたしたちのすべてであるキリストを伴い、キリストのからだの一を伴い、彼のからだのすべての肢体が機能することを伴います——エペソ 1:17. 3:16-21. 4:1-6, 16。
- IV. わたしたちの内側の主は、魂の荒野における幕屋の召会生活から、キリストをわたしたちの霊の中の良き地の実際とする宮の召会生活に、前進することを切望しています。宮の召会生活の実際に入るために、わたしたちは契約の箱と幕屋の歴史を見なければなりません——ヘブル 6:1 前半. ヨシュア 3:14-17. 申 8:7-9. エペソ 2:21-22. コロサイ 1:12. 2:6-7 :
- A. 契約の箱は、三一の神が彼の民と臨在して、彼のエコノミーを完成し、彼の王国を地上で設立することを予表します——マタイ 1:23。
- B. 歴史の第一段階で、契約の箱は幕屋の中心また内容であり、召会の中心また内容としてのキリストを表徴しました。契約の箱が幕屋のビジョンにおいて述べられた最初の項目であるという事実は、キリストが召会の中で首位を占め、わたしたちが命の中で「キリストの中へと」成長し込み、「この方から」機能し出すことを示します——出 25:10. 40:21. コロサイ 1:17 後半, 18 後半. エペソ 4:15-16。
- C. イスラエルの墮落のゆえに、契約の箱はペリシテ人に奪われ、幕屋から分離して、幕屋を実際のない空の器にしました——サムエル上 4:11 — 6:1 :
1. 墮落においてイスラエルは愚かでした。なぜなら、彼らは直接、神に信頼しなかったからです。むしろ、彼らは神によって定められた組織に信頼しました——ローマ 2:28-29。
2. 彼らはその状況の中で悔い改め、徹底的な告白をし、彼らの偶像から神に立ち返るべきであり、神が彼らにしてもらいたいように、神に尋ねるべきでした。むし

ろ、彼らは神の願いや彼の永遠のエコノミーに対して何の心もなく、彼らの迷信を用い、彼らが契約の箱の移動を通して経験した過去の勝利に基づいて、契約の箱に信頼しました。

3. 契約の箱を持ち出すことは、神の臨在を持ち出すことでした。契約の箱の行動は、地上での神の具体化としてのキリストにおける神の行動の絵でした。イスラエルがペリシテ人と戦っている間、神は行動しようとしませんでした。
4. イスラエルの子たちは神のエコノミーに何の思想や関心もなく、彼らが契約の箱を持ち出したことは、彼らが神を横領し、彼に強いて彼らの安全、平和、安息、利益のために、彼らと共に出て行かせたことを示しました。原則として、わたしたちは神のエコノミーについて何の考慮もなく、自分の繁栄のために祈るときはいつも、同じ事を行いません。神を横領するのではなく、わたしたちは神の心にしたがって、彼のエコノミーのために祈り、生き、そのための人となるべきです。人の必要が神の証しに置き換わるときはいつも、墮落があります——列王上 8:48。
5. 彼らは墮落において神を極みまで怒らせ、神は彼らを離れました。結局、契約の箱がイスラエルを救うのではなく、契約の箱自体が奪われました。「契約の箱のない」ことは、「キリストのない」ことであり、「キリストのない」ことは、「イカボデ」があることであり、それは「栄光がない」ことを意味します——サムエル上 4:21-22, 11 前半, 13 前半. 参照、コロサイ 1:27-29。

V. イスラエルの墮落のただ中で、神はサムエルを起こして、神の心が複製され、ただ神と神の権益と利益を顧慮する人となりました。神はサムエルを起こしてダビデを獲得し、ダビデを通してソロモンを獲得して、彼の宮を建造しました——サムエル上 1:27-28. 2:30. 3:1-4, 9-10 :

- A. サムエルはナジル人であり、神のエコノミーを完成するために絶対的に神に献身し、自発者であって、あらゆる形式的な神の奉仕者に置き換わりました—— 1:11, 28 前半。
- B. サムエルは忠信な祭司であって神のために行動し、地上での神聖な行政のために王を立て、堅固にすることさえしました—— 2:35。
- C. サムエルは神によって堅固にされた預言者であり、祭司である彼によって立てられた王を支援し、神の言葉を語り、古い衰退した祭司職を、神の言葉の教えに置き換えました—— 3:20。
- D. サムエルは神によって堅固にされた士師であり、神の統治上の行政を遂行し、古い祭司職を、民の裁きに置き換えました—— 7:15-17。
- E. サムエルは祈りの人であり、神の選民、イスラエルの子たちのために祈り、彼らが神の道に保たれ、神と一になって、諸国民の偶像によって畏にかけられないようにし、エベネゼルとしての神を享受して、神の選民に対するみこころにおける彼の願いが成就されるようにしました—— 12:23-24. 7:3-14. 8:6. 15:11 後半。

VI. 契約の箱と幕屋の歴史は召会の歴史を予表します :

- A. 召会はその歴史の第一段階において、キリストの表現であり、キリストは召会の内容でした。これは正常な状態です——出 40:21。
- B. 召会は第二段階において墮落し、キリストの実際と臨在を失いました。それは、内

なる実際のない空の器となりました——啓 3:20。

- C. 契約の箱はペリシテ人から回復され、まずキリアテ・ヤリムのアビナダブの家にもたらされ、そこに二十年とどまり（サムエル上 6:2-7:2）、次にガテ人オベデ・エドムの家に三か月とどまりました（サムエル下 6:10-12）。第二世紀に始まり、多くの「オベデ・エドム」が起こされました。彼らは主の臨在を持っていましたが、キリストの表現としての正常な召会生活を持っていませんでした。
- D. ダビデは契約の箱をオベデ・エドムの家から、自分の町に、エルサレムにあるえり抜きの場所であるシオンの山に用意しておいた天幕に移しました（12-19 節、歴代上 15:1-16:1）。これは改善された状況でしたが、契約の箱はまだ不正常的な場所にありました。なぜなら、それはまだ幕屋に戻されていなかったからです。この状況は、ダビデのような他の信者たちが神の權益を顧慮し、神の啓示にしたがってではなく、自分の選択にしたがって召会生活を実行しようとしたことを啓示します。これらの信者たちはキリストを持っていますが、召会生活の不正常的な実行（エルサレムにあるダビデの天幕）を伴って彼を持っていました——参照、列王上 3:3-15、歴代下 1:10。
- E. 最後に、ソロモンがエルサレムにある宮の建造を終えた後、契約の箱は宮の中の至聖所に移されました。今日、主の回復の中で、主は働いて、わたしたちを宮の召会生活としてのキリストのからだの実際にもたらし、至聖所としてのわたしたちの霊の中に団体的に生きて、彼の拡大され拡張された表現となるようにしています——列王上 8:11, 48、エペソ 2:21-22。